松飾德若譚

茨四編上下

遠14
2687
4

へ14 特
2687
4

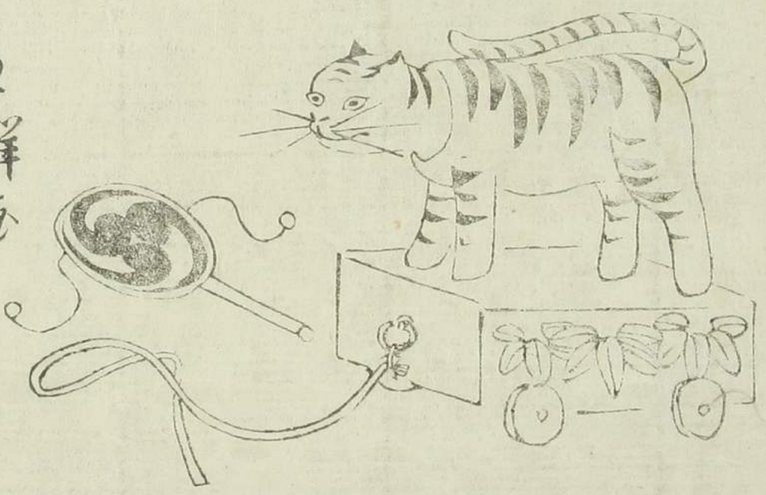
德美濃

四編下

魯文作

孟亀画

青盛文庫



熊谷文庫

一

叙

余ガ當稗史ヲ著述ル起原ハ。年來花主ト称ル青盛主人。観音参詣の帰路。足弁天山の定席ニテ。南龍ぬしガ軍談の。切ヲ聴ル張扇。それガ乗地の種本ヲ。其侭生捕注文ス。僅作意ヲ混ル。婦幼童蒙ふ與ちのうれと。當編うふれ根の遂ぬ實録。こゝ出さ虚妄方便哺くとふ口繪の虎ガ抑ちふの盤觴ニテ。千里ヲ走る評判ハ。覚束なくも看官ヲ。呼子鳥てふ

寅申
日輪を保護
天下泰
平なり
○今川治部大輔
源義基

○織田上總介
平信長
○義基
嫡子
冠者
氏實

意ふて。繪組ふ由らふ猿まろふ。三本足らぬ毛作者だ色ひ。脚色ハ小牧の小説風調。末長久まけとのぐうを。和目長篠ふ御高覧と味方ぶ腹ハ同意なる。画工梓主も侶俱ふ。冀ふハ御代の德若草史。追く次編けらをだーを。闌ごのたーより著体ハ。難波戦記乃よーけーを。

わこのりりいとはまろ御陣。千秋萬歳まんくぜん。

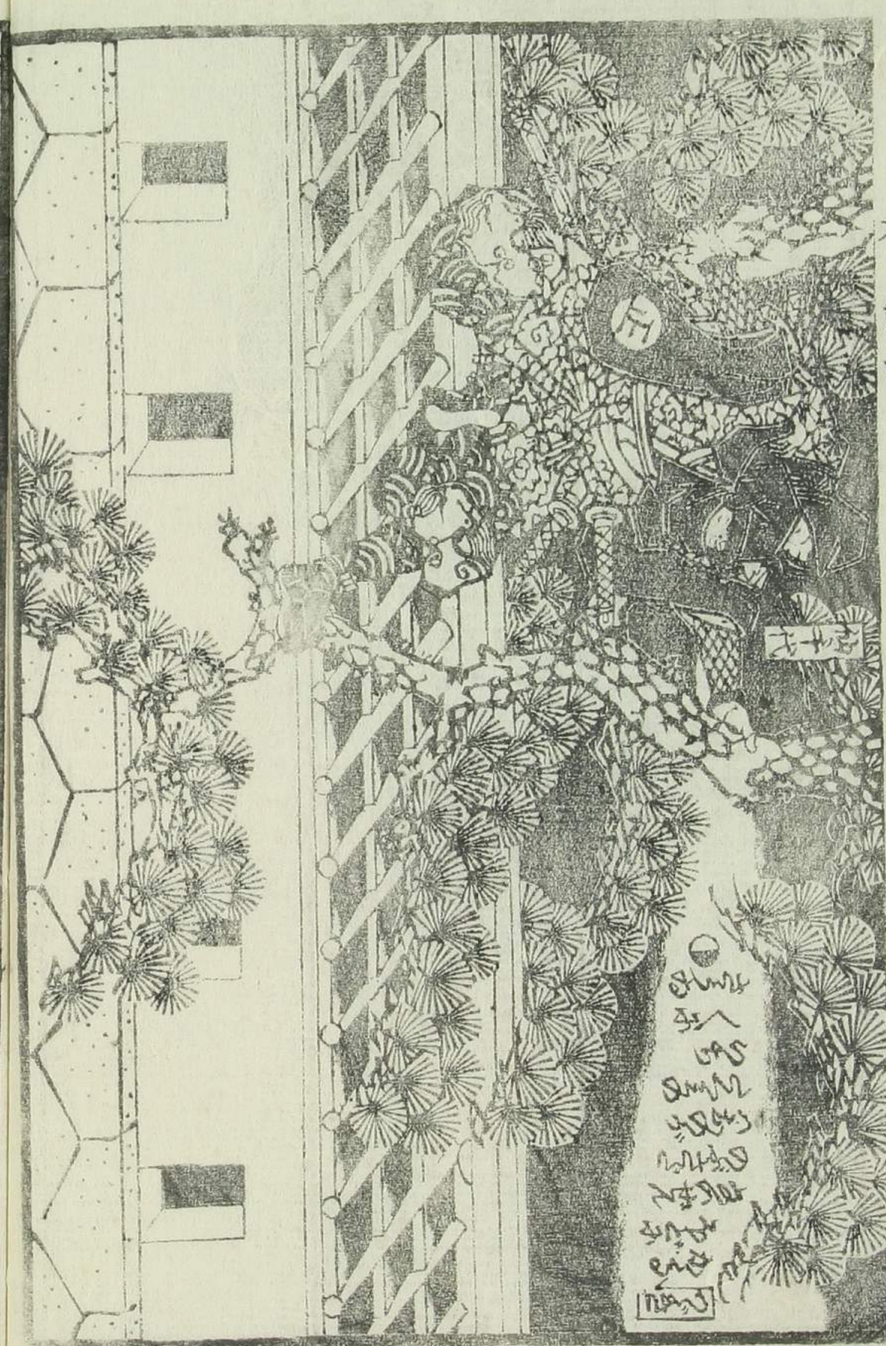
お家ハ市をさてのゆるりで。古見ちをまく

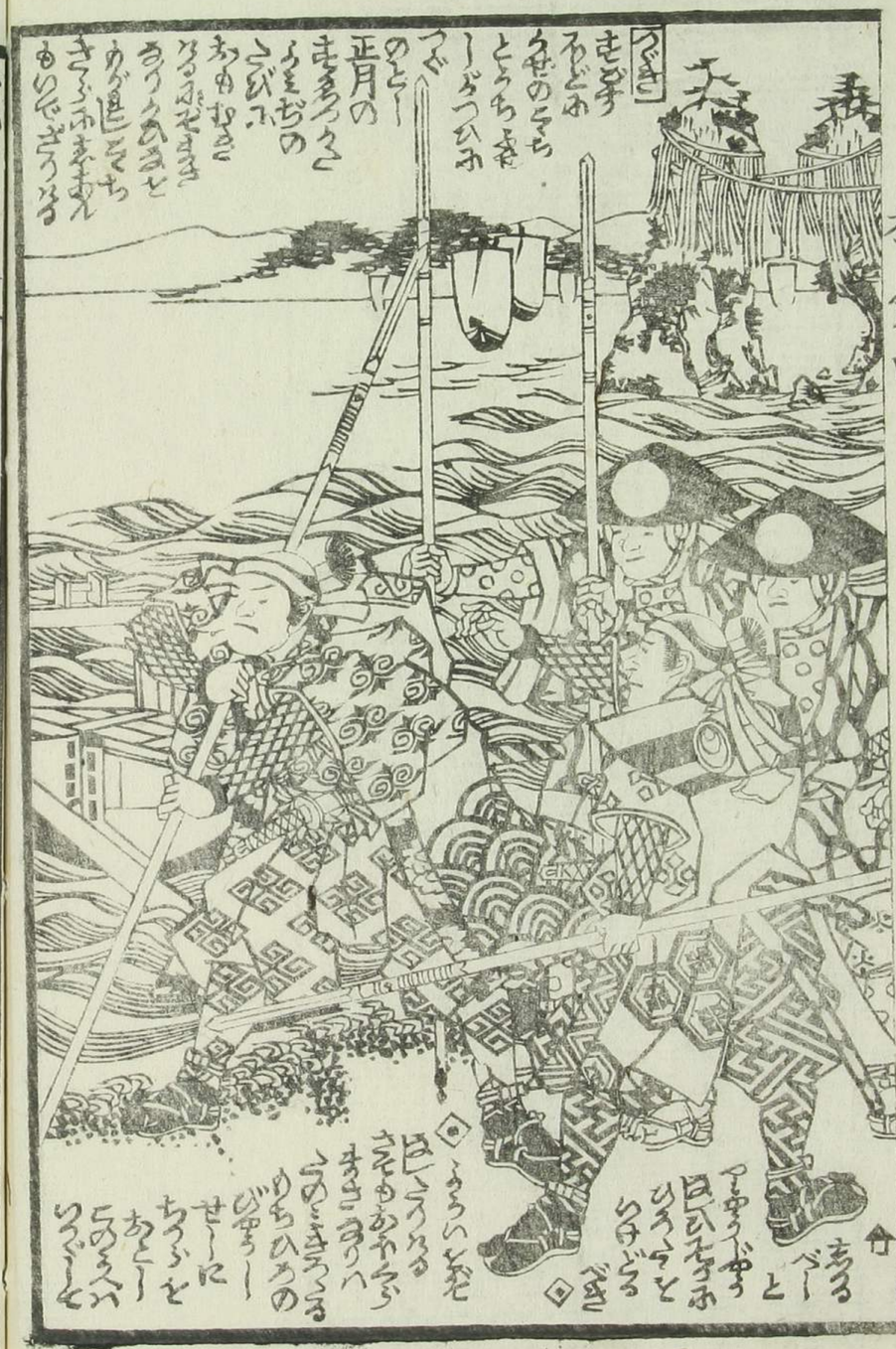
わんとをめを。呉竹けゆーく白を

明治四未歳
新板發兌

假名垣魯文誌

二木黨助の子
林東四郎政縁





魯文著　芳虎畫

松飾德若譚

五編　六編　七編

假名垣魯文作
孟齊芳虎画

今朝春三組不孟

初編　二編　三編

山々亭有人補綴
三遊亭圓朝作話
錦朝楼芳虎画図

いろは仮名女

初編　十編

山々亭有人作
歌川周重画

繪本大豐記

初編　二編　三編

孟齊芳虎画作

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

四編下

茶

可吉利

四編上

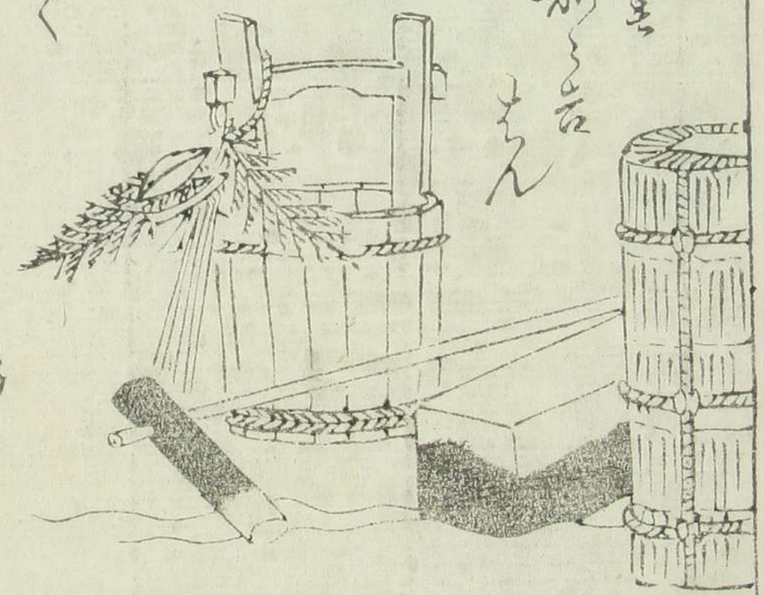
この茶うれさく

よく売るべく

辛亥春

かくと言

もん



三

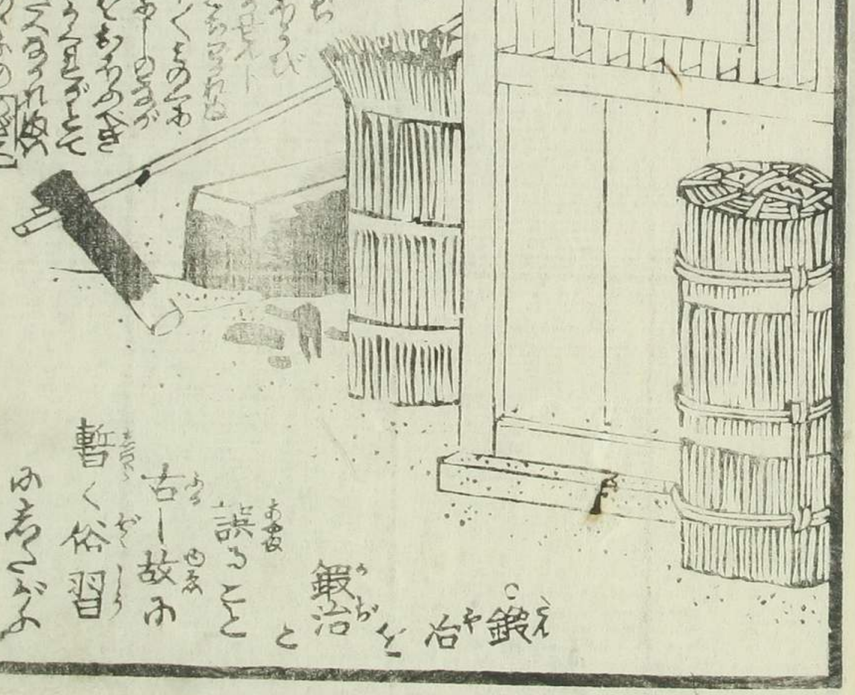
三の巻より

鎌庖丁

鉄小刀

鍛冶師

高坂五郎兵衛



鍛冶

誤ること

古し故ゆ

暫く俗習

ゆゑなり

鍛冶
高塚

三器
朝

五器

信定の妾

信定

廣忠
主従
今川家の
使者朝比奈
小隼人を出迎と
いろいろせん
とろろうえ
まろうらわこ
の者上をよびつどへ
朝

○天文十一壬寅年十二月廿六日寅の一天徳若丸誕生の図

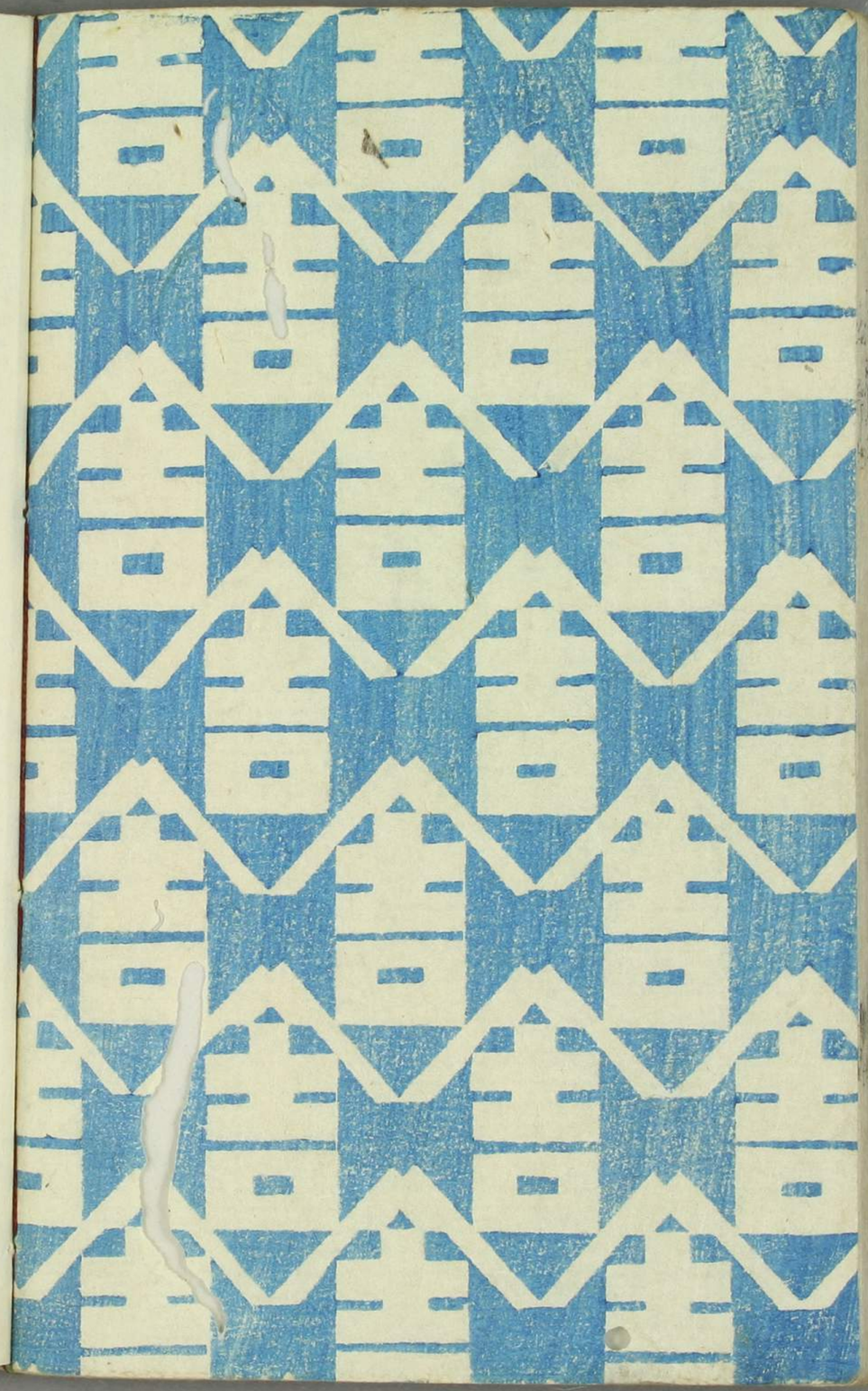
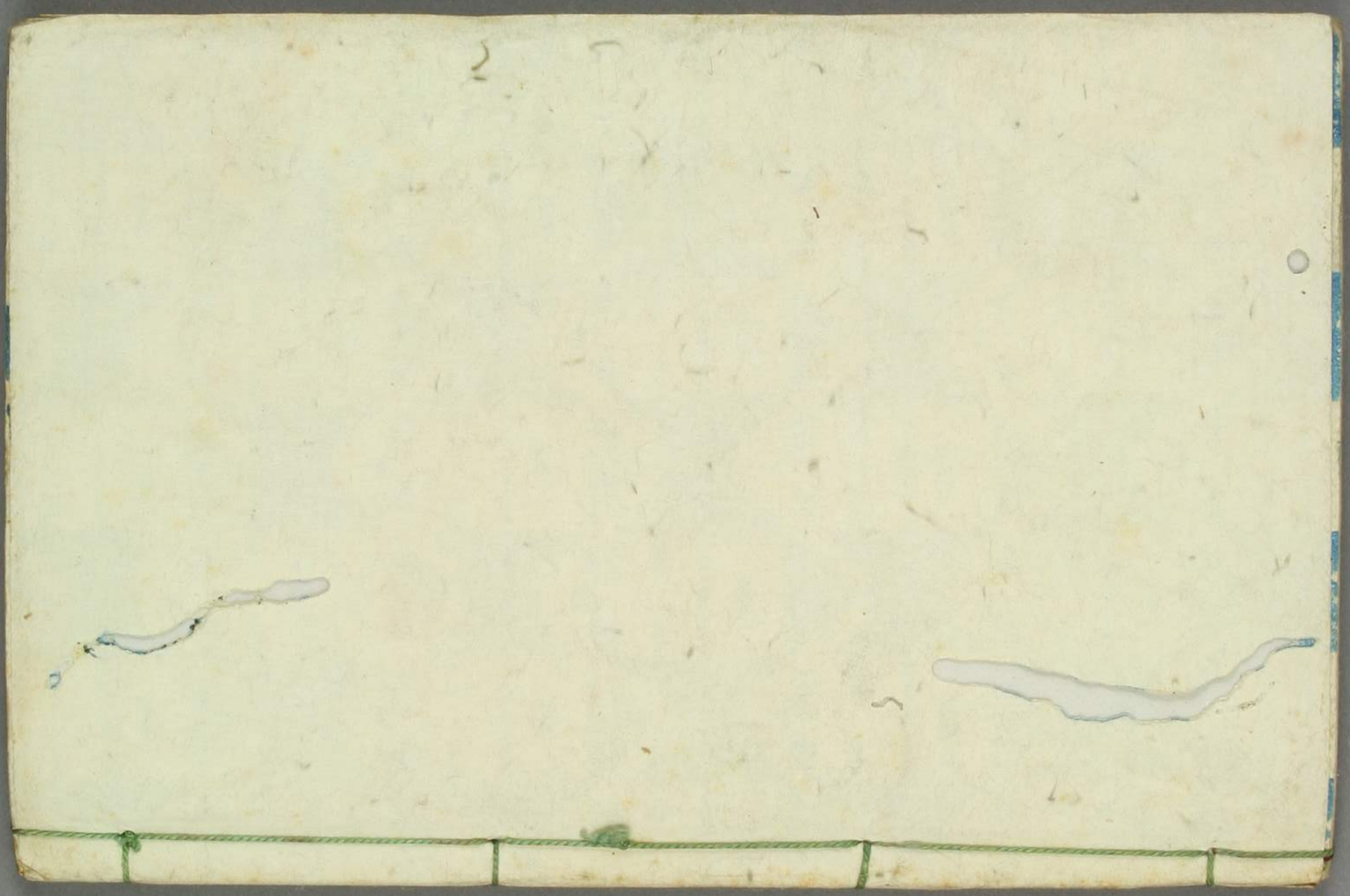
○作者曰ありぶり此巳を終る

そう推あふ時ハ庚午の十二月廿六日夜之最も不思儀の因縁あるべしや

新增補西國奇談 廿編 爲永春水作 廿一編 孟齋芳虎画

薄緑娘白浪 九編 假名垣魯文作 十編 錦朝樓芳虎画

隅田川月と梅若 五編 柳亭種彦作 山亭有人編次 六編 孟齋芳虎画

繪本太閤記 三編 孟齋芳虎画作

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板